

直江津地域で JR採用の仲間が加入!



10月31日付

新たな仲間と 共にがんばろう!

JR東日本は今年7月に新たなグループ経営ビザを明記しています。職場の社員会、サークルなどのグループや、社員個人で交渉はできません。現場第一線で働く社員・労働者の思いを直接経営側に訴えて回答を引き出す団体交渉ができるのは労働組合だけです。労働者にとって最も重要な賃金に関わる「2018年度年末手当」のたたかについて要求の満額獲得に向けて全組合員でた

3. 6ヶ月の支払いを柱に要求提出!

2018年度年末手当に関する申し入れ

10月19日、中央本部は「基準内賃金の3.6ヶ月」を柱とする2018年度年末手当の要求を、申9号として経営側に申し入れました。全組合員の力を、職場からの声を一つに結集して、要求満額獲得に向けて取り組みます。

7月27日に発表されたJR東日本の2018年度第1四半期決算は増収減益となるなかで、営業収益が7期連続の増収かつ第1四半期決算では過去最高となりました。

また、10月29日に発表された第2四半期決算についても、引き続き営業収益が7期連続の増収かつ、第2四半期としては過去最高となりました。今年度の通期業績予想について「増収を見込む一方で費用の増加が見込まれる」として増収減益を計画している中で、収益の確保に努力するJR労働者の並々ならぬ努力が表れた結果といえます。

また、10月29日に発表された第2四半期決算についても、引き続き営業収益が7期連続の増収かつ、第2四半期としては過去最高となりました。今年度の通期業績予想について「増収を見込む一方で費用の増加が見込まれる」として増収減益を計画している中で、収益の確保に努力するJR労働者の並々ならぬ努力が表れた結果といえます。

また、10月29日に発表された第2四半期決算についても、引き続き営業収益が7期連続の増収かつ、第2四半期としては過去最高となりました。今年度の通期業績予想について「増収を見込む一方で費用の増加が見込まれる」として増収減益を計画している中で、収益の確保に努力するJR労働者の並々ならぬ努力が表れた結果といえます。

「変革2027」を我がものとし、新たな一歩を踏み出したJR労働者のモチベーションを高めるためにも、また、安全安定輸

送を担うと共に、収益の確保に努め、さらなる会社の発展に向けて日々努力を重ねるJR労働者に報いるために、「社員・家族の幸福の実現」を実感できる回答を行う責務が経営側にはあるといえます。



本部申8号を申し入れ

真の安全確立に向けて議論を創り出そう

中央本部は10月9日、申8号として「新幹線ドア不良のまま営業運転を継続したことに関する申し入れ」を提出しました。

2018年7月13日、「MAXとき320号」(16両編成)が大宮駅で乗降扱い中に、9号車から16号車まで8両分のドアが、スイッチ類を扱っていないにも関わらず閉扉する異常が3度発生しました。

また7月30日にも「MAXとき324号」(8両編成)が新潟駅で乗降扱い中に、全車両の左右両側(新幹線ホーム側と、在来線乗り換えホーム側)全てのドアが、スイッチ類を扱っていないにも関わらず閉扉する異常が2度発生しました。

どちらも事象発生後、原因が特定されないまま営業列車として終着の東京駅まで運行が継続されました。

ドアに関わる事象はお客様の傷害事故に直結することから、車掌は細心の注意を払いながらドア

職場の問題について立ち向かおう

新潟運輸区分会第6回定期大会

新潟運輸区分会は10月12日、第6回定期大会を開催しました。

33名の組合員が参加し、6名の代議員から発言を受けました。

労働組合として組合員の声を大切に、職場の問題に対して1つひとつ立ち向かっていく必要性を再認識する大会になりました。

(新潟運輸区分会 投稿)



- 2018年度
年末手当要求項目
1. 2018年度年末手当は「基準内賃金の3.6ヶ月」とし、12月14日まで支払うこと。
 2. 55歳以上の社員(昭和38年4月1日以前生まれ)に、一律5万円の加算をすること。
 3. グリーンスタッフの精勤手当に、一律5万円の加算をすること。